



夷隅川流域の生物多様性を大切に、 持続可能なまちづくり 【地域に学びと保全活動の場を】



地域の方々に、生物多様性を重視した農の営みによる環境保全を進めるための学びと活動の場を提供しています。

2. いすみ市での農業国際会議開催への協力

いすみ市では生物多様性に基づいたまちづくりと有機稲作に取り組んでおり、2017年から全国ではじめて、学校給食に使用されるお米の全てを有機米で提供するなど有機農業への取り組みが盛んになってきています。2018年7月にはアジア各国で生物多様性の保全・再生の視点で取り組まれている有機農業や環境保全型農業、それらを基盤としたまちの活性化を議論するために、いすみ市で「第5回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA = International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture) 2018」が開催されました。

私たち NPO 法人いすみライフスタイル研究所は、開催地専門委員会の中核団体として、「第13回日韓田んぼの生きもの調査交流会」、「いすみの生物多様性を育む農業現地見学会」、エクスカーショ、研究ポスター発表・展示会などを開催しました。

NPO 法人いすみライフスタイル研究所

〒299-4616 千葉県いすみ市岬町長者 475
Tel: 0470-62-6730 Fax: 0470-62-6731
E-mail: isumi-style@bz03.plala.or.jp
発行人: 高原和江 執筆・編集・DTP: 江崎 亮 イラスト: 清水京子 (シミキョウ)

※このポスターは地球環境基金助成金の助成を受けて2019年度作成し、2020年度増刷しました。
※私たち NPO 法人いすみライフスタイル研究所は、環境保全活動をはじめ、国連で採択された「SDGs (Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標-)」を視野に入れたまちづくりに取り組んでいます。



1. 獣害対策などの勉強会の開催

夷隅川の荒廃の原因のひとつと言われているのが、耕作放棄地の増加です。この耕作放棄地を増やす要因のひとつにイノシシなど有害鳥獣による農作物被害です。この被害を減らすために、2016年度より農研機構の仲谷淳氏を講師に招いて集落で対策を行う勉強会を行ってきました。また、2018年度には、農作物被害だけでなく人間への感染症の危険があるアライグマについての勉強会を獣医の加藤卓也氏を招き、市役所の獣害対策担当者や猟友会幹部対象に行ってきました。2019年度にはサル対策の勉強会も予定しています。

